

〔共話シリーズを語りなおす〕

2月19日（土） 18:00～19:20

<Zoomメインルーム>

2021年度、国際ボランティア学会では総合地球環境学研究所の共催、日本WHO協会の後援で「共話シリーズセミナー」として「東日本大震災 支援する人 される人」（全5回）を実施しました。「東日本大震災が起きたときにまだ小学生だった学生も気軽に参加でき、共に話せるような連続セミナーを」という趣旨での展開でした。

特設サイト (<https://kyowa2021isvs.wixsite.com/website-1>) には中村安秀会長による趣意書が掲載されています。その冒頭では「『共話』というのは造語」と前置きの上で、その意義を「誰かとともに対象をながめながら、問わず語りのように自分の思いを話すとともにとなりの人の声に耳を傾ける」と記されています。

運営は国際ボランティア学会の第22回大会を担当した名城大学の学生が担いました。ちなみに特設サイトの背景には、沖縄県の今帰仁村に流れ着いた宮城県気仙沼市のコンテナの写真が用いられました。

東日本大震災から10年という時を越えて、またオンラインを通じた距離を越えて、何をどのように理解が深められたか。5月から7月にかけて、陸前高田、福島、釜石、石巻、遠野と、5つのまちを取り上げたセミナーをその企画運営を担ったメンバーが語りなおします。

<話題提供者>

阿部 健一（総合地球環境学研究所教授）

中村 安秀（国際ボランティア学会会長）

飛田 ほのか（名城大学国際学群国際文化専攻3年次・共話シリーズ事務局長）